

授業科目	日本語表現法				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング	EN21603J		
開講年次	3・4年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	戸田 由美							
授業概要	自分の気持ちを素直に表現し、エレガントな文章を早く上手に書くために、その対策として「文章表現のルールと実例」を掲げながらそのコツを学び、授業計画に示している内容を系統立てて学習してゆく。したがって、書くことのみならず上手に話すための方法、訓練にも努めてゆきたい。そうすることによって、ことばの背後に隠れている日本文化についても認識を深めることができるよう、講義するものである。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> ことばの大切さを自覚し、日本語を通して日本文化についても認識を深めることができる。 コミュニケーションが円滑になり、視野が広がり、ものの見方に幅ができる。 読む・聴く・書く・話す能力が向上し、文章の書き方、話し方等々の基礎を習得することができる。 磨きのかかった表現をものにして、魅力的な女性へと変身(変心)することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	10	50	20	20	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			40				40	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)	0			10			10	
態度 (DP4-2)	0			10	10		20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)		10	10		10		30	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
読む、聴く、書く、話す能力を遺憾なく発揮し、美しく、正しい日本語表現ができること。4つの能力に基礎知識はもちろんのこと、ことばの背景にかくれている日本文化の精神性をも認識していること。				一般的な原稿用紙の書き方を修得し、要点を押さえながら、自身の表現でもって相手に自分の考えを伝えることができること。その際、もちろん敬語表現にあやまりがあってはならない。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	日本語と〈お米〉の関係について。 何故、日本語というものが生まれたのか。			講義		復習すること		30

2	「普通の文の書き方」について(1) 簡単そうで難しい「具体的」について事例を掲げながら検討する。	講義	自分の考えをまとめる予習をしておくこと	20
3	「普通の文の書き方」について(2) 文のねじれ・語順・句読点の打ち方・文章の組み立て方などを考察しながら、わかりやすい表現を修得する。	講義	復習をしっかりとすること	20
4	文章を読むと、なぜ頭がよくなるのか。 そのわけは？	講義と演習	予習；自分なりの意見をもって講義に臨むこと。	30
5	就職のための小論文の書き方のコツ(1) ジャンル別にテーマを定めて、論ずるための構成方法を修得する。	講義	メモを取る習慣を身につけよう	30
6	就職のための小論文の書き方のコツ(2) 同上に加えて論文と作文の相違を考え、実際に書いてみる。	講義と演習	予習；あらかじめ、論文の構成をたてて講義に臨むこと。	40
7	あなたは敬語に自信がありますか？(1) 間違いやすい敬語の例をあげ訂正検討する。	講義	予習をしておくこと	
8	あなたは敬語に自信がありますか(2) 間違いやすい敬語の例をあげ、訂正検討する。	講義	復習をすること	20
9	間違いやすい日本語表現について	講義	復習をして自分の考えを日常と照らしてみること	20
10	間違いやすい慣用表現について	講義	復習して、なるべく覚えるようにすること	30
11	会話の達人になるには(1) あらかじめテーマを定めて、グループ討議した内容を代表者がスピーチする。その際、まとめたメモも提出し、後、注意事項を話し合う。	講義と演習	予習：あらかじめテーマを決めて講義に臨むこと。	50
12	会話の達人になるには(2) 同上に加えてスピーチコンテストを展開し、人前で話すことの重要性を多角的な面から考察する。	講義と演習	予習：あらかじめテーマを決めて講義に臨むこと。	50
13	手紙を書こう。 書き方のルールを手本にして実際に手紙をかいてみる。そして手紙の形式に表れている日本人のこころにふれてみよう。	講義と演習	予習：あらかじめテーマを決めて講義に臨むこと。	40
14	若者ことば・接客ことばについて。 時代とともに変化し続けることば遣いの乱れや誤りを掲げながら、美しい表現を追求する。	講義	あらかじめ意識的にまとめておくこと	20
15	まとめ 今までの講義を振り返り、重要ポイントを復習しながら総括的に考える。	講義	今までの講義を思い返し復習してほしい	20
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>勉学の第一歩として国語辞典をよむこと。 この場合、調べるための辞書というより読むための辞書という気持ちで読んでいただきたい。</p>			
テキスト	<p>使用しない。</p>			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>1週間に1冊の割合で、読書していただきたい。 活字にふれ、自身の感性を磨くことがとても大切。</p>			
達成度評価に関するコメント	<p>レポートを仕上げたり、提出物をまとめてゆくうちに、文章構成が自然とうまくなるので、真面目な態度、誠実な心構えで臨んでいただきたい。「その他」では、授業への積極的な受講態度を評価する。</p>			